

令和3（2021）年度第1回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会
議事概要

- 1 開催日時 令和3（2021）年7月27日（火）10:00～11:00
- 2 会議形式 オンラインによるWeb会議（栃木県総合文化センター第1会議室）
- 3 出席者 委員：9人（うち代理1人）、オブザーバー：4人（うち代理1人）

4 議 事

(1) 茂木町における実証実験の実施結果について

資料1に基づき、茂木町における実証実験の実施結果について説明し、委員から今後の実装に向けた留意点等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 自動運転か手動運転か分からないくらい運行はスムーズであった。【委員】
- ・ 乗車した際に不安を感じたり、通常の車と違ったりということはなかった。ただ、自動運転を意識して乗車したからこそ気づいた点ではあるが、通常の車よりブレーキが強くなる感覚はあった。【委員】
- ・ 路線バスとして運行する際には、自動運転を受け入れる環境の整備の外、車内トラブルへの対応、運賃の收受、車いすの補助等、運転以外の業務への対応が課題と考えられる。【委員】
 - 実装に当たっては、交通事業者に自動運転技術に慣れてもらうほか、自動運転に応じた運行体制の整備も必要になる。今後様々なパターンの実験を実施する中で、少しずつステップアップしていきたい。【事務局】
- ・ 今回の運行ルートでは、マイクロバスよりも小さな車両で良かったのではないかと感じた。実装に当たっては、そのルートに適した車両を充てることも課題の1つだと思う。【委員】
 - 地元関係者へのヒアリングでも同様の意見が出ていた。今後、茂木町を中心として、ニーズに合ったルートの設定や車両の選択を進めていってほしいと考えている。【事務局】
- ・ 現在様々な企業や研究機関で技術開発が進められており、用いる車両や技術によって機能や性能が異なるので、それを正しく理解した上で、必要な体制を整備することが重要である。【委員】
- ・ レベル4の自動運転について、今年度から国内で技術実証を開始する予定だが、事故時の対応等が課題の1つであり、補助ドライバー付きから始める。この点については、今年度、警察庁、経産省、国交省の会議で検討されるので、実験においても適宜参考にすると良いと思う。【委員】

(2) 那須塩原市における実証実験の実施概要について

資料2に基づき、那須塩原市における実証実験の実施概要について説明し、委員から今後準備を進める上での留意点等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 非常に精力的に取り組が進められていると思う。【委員】
- ・ 自動運転バスの実装によって、鉄道利用が増える可能性があり、バスターミナルをハブに、宿泊施設への移動に利用されることが想定される。その際により多くの方に利用してもらうため、旅行会社とのタイアップの可能性についても検討した方が良い。【委員】
- ・ 一昨年の冬に福島県飯館村でグリーンスローモビリティの実証実験を行ったが、車両に注目されるより、寒かったとの意見が多かった。ちょっとしたことだが、今回の実験では、自動運転に注目してもらえよう、カイロを配ること等も検討すると良いと思う。【委員】
- ・ 茂木町の実験からステップアップすることで、新たな課題も出てくると思うので、県と調整を図りながら準備を進めていきたい。【那須塩原市】